

## (6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)。

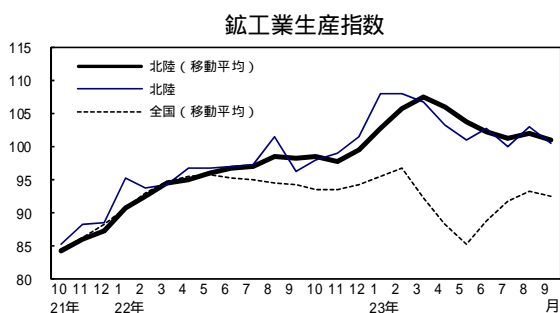
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成23年8月)	今回(平成23年11月)	
個人消費	持ち直しの動き	おおむね横ばい	
雇用情勢	持ち直しの動きに一服感	持ち直し	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

一般機械は、主力の建設機械が海外向けや国内向けで増加した一方、金属工作機械や金属加工機械、半導体製造装置が減少した。電子部品・デバイス、自動車向けやスマートフォン向けを中心に足元で持ち直している。化学は、医薬品の減少を主因に減少した。金属製品は、一部に復興需要などもあって増加した。繊維は、主力の衣料品向けで高機能衣料繊維が増加、非衣料品向けも自動車生産の回復などから自動車の内装材が増加した。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。  
2. 全国及び北陸の大線は後方3か月移動平均。

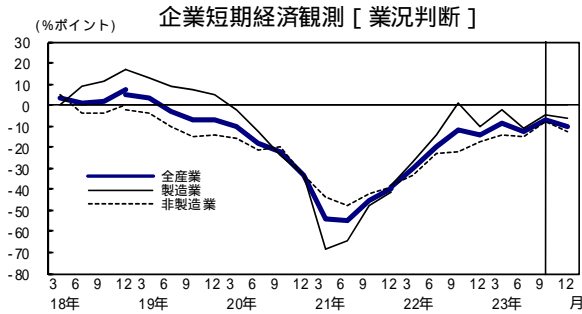
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	16.2	3.4	12.1	-	-
電子部品・デバイス	15.8	10.3	1.3	-	-
化学	14.5	4.8	2.5	-	-
金属製品	9.2	4.0	0.4	-	-
繊維	8.5	0.9	1.8	-	-
鉱工業	100.0	4.9	1.2	-	-

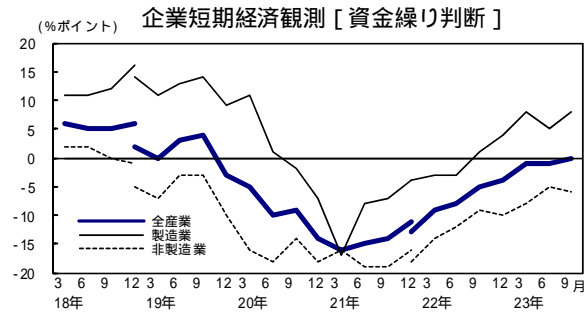
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

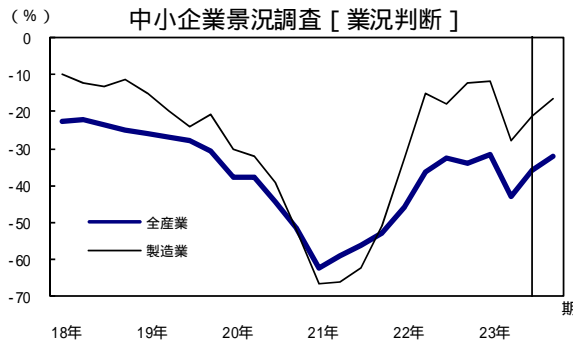
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年12月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。  
中部地区。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

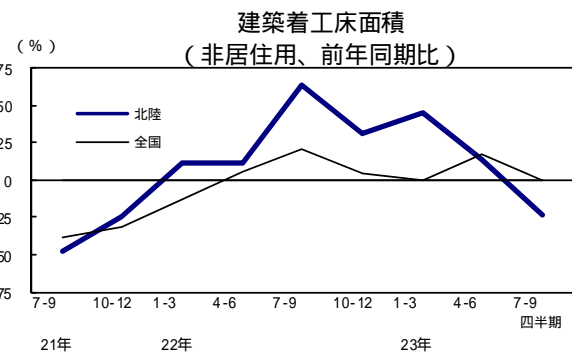
「円高傾向が継続しており、国内の設備投資が延期傾向にある。また海外の取引先も資金調達が難しく、設備投資が動かない(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多く見られた。

(3) 23年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	24.3	4.5( 5.3)
製造業	29.1	9.9( 7.0)
非製造業	12.2	11.3(1.5)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

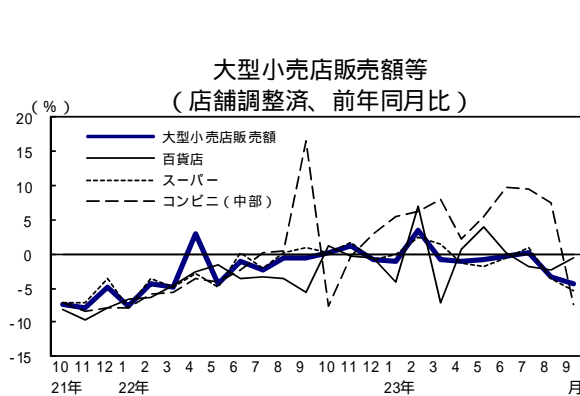
### 大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で2.4%減、前期比で0.1%減となった。

百貨店は、7月は、暑さ対策商品などが堅調だった一方、中元を早期展開した反動減などから、前年を下回った。8月は、気温の低下や雨の日が多かった影響で夏物衣料などが低調だったことから前年を下回った。9月は、台風の影響により来客数が減少したことなどから前年を下回った。スーパーは、気温の低下や台風の影響、前年のたばこの駆け込み需要による反動減などから、前年を下回った。

### 景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「本来ならそろそろ単価の高いジャケットやカーディガンなどアウターが売れ始める時期であるが、暑い日が多く興味を示さない(商店街)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	0.2	0.5	0.7	2.4
百貨店(*1)	0.0	1.9	1.5	1.6
スーパー(*1)	0.2	1.1	1.3	2.6
大型小売店(*2)	0.5	0.2	1.3	1.1
(季節調整値)(*3)	( 0.8)	( 0.6)	( 0.1)	( 0.1)
乗用車(*4)	29.2	26.8	30.9	16.8
(季節調整値)(*4)	( 32.4)	( 1.8)	( 6.0)	(26.6)

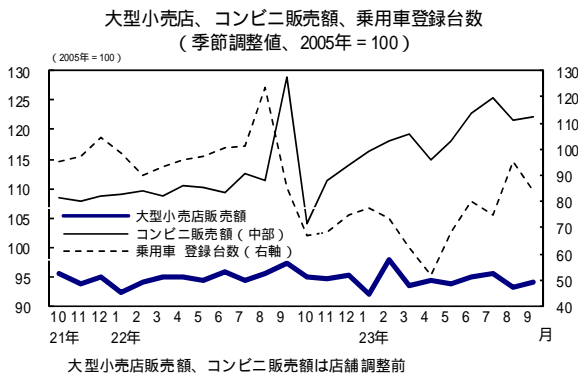
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

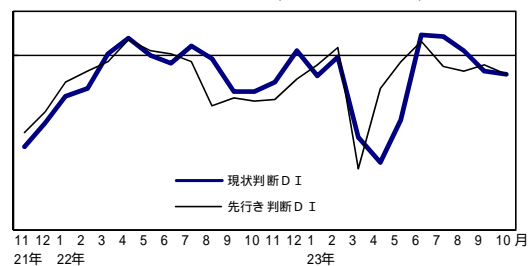
3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



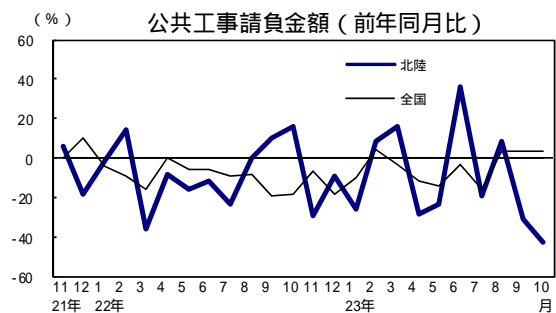
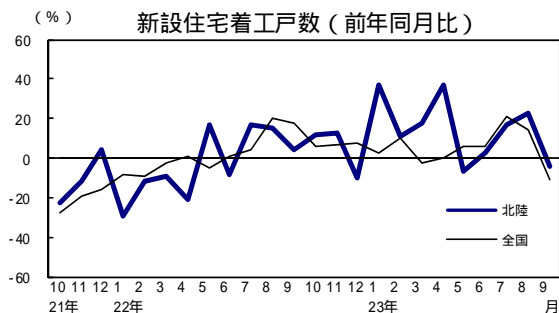
### 景気ウォッチャー調査(家計動向関連)



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家、分譲で前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。

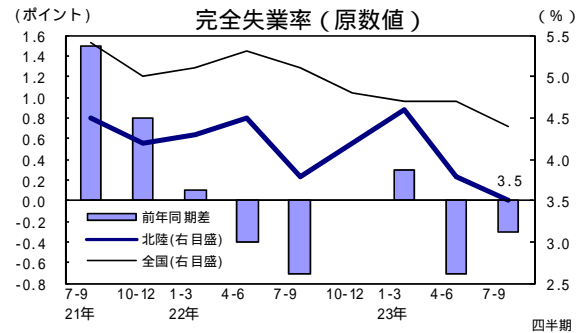
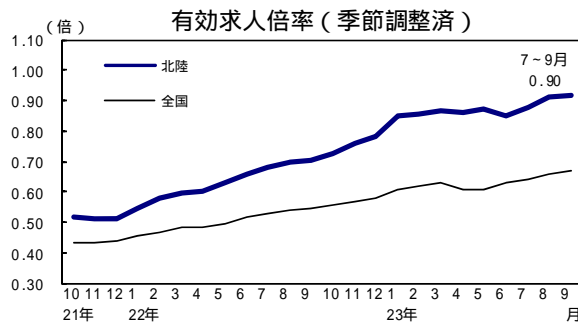


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

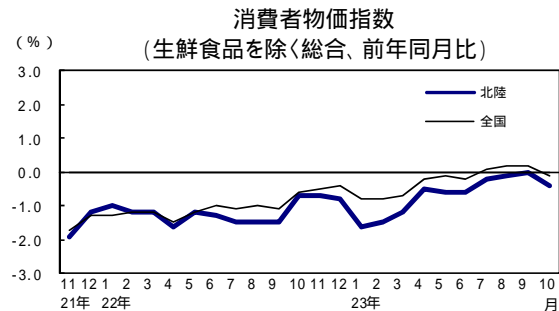
「最近数か月は同じような求人数で推移しており、交代要員やピーク時の対応での派遣がほとんどである(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月	23年10月
倒産件数	77	78	107	72	24
(前年比)	34.2	3.7	44.6	28.0	17.2
負債総額	282	173	223	201	20
(前年比)	31.1	40.6	56.2	34.3	83.9



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・秋の旅行シーズンでもあり、団体旅行の件数、売上ともに前年を上回っているが、4～6月の穴埋めまではできていない(旅行代理店)

<先行き>

・震災の影響や地上放送のデジタル化による反動も薄くなり、太陽光発電などの節電関係の注目度合いが上がっている。回復傾向に向かうのではないかとと思われる(家電量販店)

